

曳山ひきやまと子供歌舞伎

毎年五月十四、十五日の菟橋うはし(諏訪)

と本折日吉(山王)の両神社の春祭りは、神輿とぎょしんこの渡御巡幸とぎょしんこにちなみ「お旅まつり」と呼称した。同時に高樓式たかろうしきの曳山も巡幸し、その曳山を舞台上に子供歌舞伎が上演された。これは明和三年(一七六六)の山王祭に龍助町と西町が近江長浜の芸屋台形式による子供歌舞伎を見做まらったのがはじまりとされ、後に八日市町・大文字町・寺町・東町が、諏訪社氏子の京町・中町・松任町・材木町が加わり計一〇町が曳山を出した。今は八町が二町ずつ交替で上演する。

その年の正月明けに役者選えきやくびを終え、振付師しんぷりと浄瑠璃じやうるり大夫だゆう、三味線さんまいせんとの初顔合わせをし、衣装合わせや立ち稽古きこ、仮設の屋台での稽古を行う。やがて祭りまつりが近づくと町中総出で曳山を組み立

てる。以前は重さ七、八〇キの松材の車輪を池や川、泥田に埋めて保存して

おり、掘り出す作業が行われた。前夜に化粧と着付けの後、「手向たむけ」と称して役者たちは町内へのお披露目をする。

祭り当日、まず上演の無事と成功を祈って宮参りをするが、主催する御幣持みひもちちの五人衆頭ごにんしゆうだうを先頭に、役者や三役たちが道中するのを「お練り」と称した。最初に三番叟さんぼそうが演じられ、次いで若連中のご祈祷ごきとうと芸題げいだいを読みあげる口上がある。上演は町ごとまちごとに曳山を留め、花道と床場を増設して行うが、裏方はすべて若連中がやり、拍子木を叩くカギ打ち、役者

を介添くわくごえする黒衣くろい、効果音や陰囃子かげばしなどを担当する。最終日の上演を千秋楽



曳山子供歌舞伎の上演場面(八日市町の夜間千秋楽)



八基曳揃え 市役所前と小松駅前で行われる。



本折町の築山歌舞伎

といいくライマックスを迎える。
 平成期より市役所前や小松駅前で八
 基曳揃え、九竜橋川で橋渡し式の神事、
 全国子供歌舞伎フェスティバルを行う
 ようになった。さらに曳山ではなく寺
 の門前に舞台を設けて行う築山の歌舞
 伎も近年では本折町が、以前は三日市
 町、松任町でも行われた。(小林忠雄)



組み立て作業(中町)



車輪掘り起こし(材木町)